

一関工業高等専門学校	開講年度	平成29年度(2017年度)	授業科目	電気機器設計
科目基礎情報				
科目番号	0007	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	電気情報工学科	対象学年	5	
開設期	前期	週時間数	1	
教科書/教材	大学講座電気設計概論、著者 広瀬・炭谷、発行 電気学会			
担当教員	郷 富夫			

### 到達目標

- ①加熱・冷却現象を理解し、電気機器の概略温度上昇値を計算できること。
- ②自己インダクタンスと漏れインダクタンスの違いを理解し、電気機器の概略の磁回路計算ができること。
- ③電気機器の出力が電気装荷と磁気装荷の双方により決まることを理解し、電気機器の概略の大きさを計算できる。

【教育目標】C, D

【学習・教育到達目標】C-2, D-1

### ループリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
①加熱・冷却現象を理解し、電気機器の概略温度上昇値を計算できること。	電気機器の加熱・冷却現象を理解でき、概略温度上昇値を計算できる。	電気機器の加熱・冷却現象を理解でき、概略温度上昇値を計算できる。	電気機器の加熱・冷却現象を理解できず、概略温度上昇値を計算できない。
②自己インダクタンスと漏れインダクタンスの違いを理解し、電気機器の概略の磁回路計算ができること。	自己インダクタンスと漏れインダクタンスの違いを理解し、電気機器の概略磁回路計算ができる。	自己インダクタンスと漏れインダクタンスの違いを理解できず、電気機器の概略磁回路計算ができる。	自己インダクタンスと漏れインダクタンスの違いを理解できず、電気機器の概略磁回路計算ができる。
③電気機器の出力が電気装荷と磁気装荷の双方により決まることを理解し、電気機器の概略の大きさを計算できる。	電気機器の出力が電気装荷と磁気装荷の双方により決まることを理解でき、電気機器の概略の大きさを計算できる。	電気機器の出力が電気装荷と磁気装荷の双方により決まることを理解でき、電気機器の概略の大きさを計算できる。	電気機器の出力が電気装荷と磁気装荷の双方により決まることを理解できず、電気機器の概略の大きさを計算できない。

### 学科の到達目標項目との関係

#### 教育方法等

概要	電気機器の設計は、性能、価格、納期などの制約や、製品規格や社内の標準などの制約の中で、工学の原理原則を応用し製品を作り出して行くことである。 この「もの作り」の基本となる基礎理論について、電気的のみならず、構造、材料、機械的な事項について学習する。
授業の進め方・方法	「授業項目」に対応する教科書の内容を事前に読んでおくこと。また、ノートの前回の授業部分を復習しておくこと。 電気機器設計では、電気機器工学で学んだ直流機、変圧器、誘導機、同期機などの基礎知識が必須であるので、復習すること。 授業は教科書を用いた授業、および自学自習の2つの形態で進める。自学自習では課題を提示するので、レポートの提出を義務とする。
注意点	試験結果(100%)で評価する。詳細は第1回目の授業で告知する。 電気機器設計の基本を理解して、産業界で多用している電気機器の設計演習を行うことで実践的な応用手法の理解の程度を評価する。総合成績60点以上を単位修得とする。課題等を課すので自学自習をしてレポート等を提出すること。自学自習レポートの未提出が、4分の1を越える場合は不合格点とする。

#### 授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
前期 1stQ	1週		
	2週		
	3週		
	4週		
	5週		
	6週		
	7週		
	8週	温度上昇 (0.5週)	熱の流れ、加熱・冷却曲線について理解できる
2ndQ	9週	誘導起電力	電気機器の誘導起電力について説明できる
	10週	漏れリアクタンス	漏れリアクタンスについて説明できる
	11週	磁気回路	電気機器に必要な起磁力について説明できる
	12週	損失および効率	電気機器の損失、効率について説明できる
	13週	寸法の決定	出力係数、電気装荷、磁気装荷など説明できる
	14週	誘導電動機の設計	出力より誘導電動機の概略の大きさを決める
	15週	まとめ	
	16週		

#### モデルカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

#### 評価割合

	試験	合計
総合評価割合	100	100
温度上昇	30	30
磁気回路	40	40

寸法の決定	30	30
-------	----	----